

## 金融トピックス ( 9 8 / 1 1 )

### 押寄せる信用収縮 ( 3 )

今月発表された東京手形交換所の9月交換決済額が対前年比25%減少したという事実は、正直云って私(達)を驚かせた。信用収縮が民間企業間取引まで急速にしかも大規模に進んでいて、信用収縮が新たな段階に突入していることを示していたからだ。この時代、私達は何を指針に行動したらいいのだろうか？

政府筋の云うことか、TVや経済誌に出てくるエコノミストの云うことか、それとも銀行トップの云うことか？恐らくそのどれでもない。マーケットの世界では、それら(ホワイト・プロパガンダ)を信じ行動した者は負け組に入ってしまうが、経営の世界でも同じ事が云えるに違いない。羅針盤のない航海では、星と風と波だけが頼りとなるだろうが、資本主義経済下では資本の声に耳を傾けるのが重要だと思う。

### 公的資金と地銀

銀行の中間決算発表は殆ど終了したが、公的資金を導入するかどうかで大きく揺れ動いた決算発表だった。その中で、従来色濃かった横並び行動はかなり後退し、それぞれの道を模索する動きが見えてきた。

依然として多くの問題を抱え込んでいるが、全体として正しい方向に進んでいると理解して良いと思う。「早く」「大胆に」実行出来るかどうかが今後のポイントである。

ところで、地方銀行が公的資金による資本注入申請に躊躇している。理由は二つあるようだ。一つは、公的資金不要の地方銀行が多い中で言い出しにくいという横並び精神がある。もう一つは、公的資金注入の条件にリストラや合併・提携を飲まされるのではないかという懸念を持っていることがある。

地方銀行は今後どのように動いて行くのだろうか。大手銀行の半数以上が国内回帰を鮮明にし、一部は大型地域銀行を指向すると見られる中で、地方銀行の再編は不可避だと思う。それは、旧相互銀行グループである第2地銀をも巻き込んで展開して行く筈だ。当然ではあるが、貴社や貴社の取引先の取引地銀もその流れの中にある。今の取引銀行が今のままの姿で存続して行くと考えるのは一寸楽観的に過ぎると思う。

### 生保、既存契約見直し！？

Weekly Fax Report

《転載・複製等にご連絡下さい》

生保業界に、かつて販売した個人保険契約の見直し論が浮上している。大手生保8社だけで年間1兆2千億円の逆鞘が発生して、このまま行けば「生保崩壊」に向かうとの危機感が背景にある。運用利回りはかつてない水準まで低下し、頼みの含み益も枯渇した。最早この状態を脱するためには、高金利を約束した既存契約の予定利率を引下げるしかないというわけだ。

今週公表された生保各社の中間決算を見ても、確かに生保は苦しい。古い契約(高金利)を解約させて(バージョンアップ)、新しい商品(低金利)へ切換えさせる姑息な戦術も契約者に見抜かれて前に進まず、もう後はないのかもしれない。しかし、だからと云って「約束を反故にしている」筈もない。

業界では、行政指導による「皆で渡れば恐くない」方式で見直したいようだが、契約者の支持を失った時何が起るのかは、しっかりと覚悟しておいた方がいい。

### 「マイナス金利」発生

マイナス金利等と云われてもピンと来ないかもしれない。単純に云えば、貸した人が金利を払い、借りた人が金利を受取る状態で、常識的には「起り得ない」話である。そんなマイナス金利が今月上旬市場で発生した。この通常起り得ない現象が起ったのは、金利を払った貸し手がその裏で払った以上の収入を得ていたからだ。金利を払った貸し手は外銀で、裏で外銀に「それ以上払った」のは日本の都市銀行である。

都市銀行は外銀がマイナス金利で取引しても損をしない状況をつくった。何故か。不足するドルを調達するために、円とドルとの不利な交換(スワップ)に応じたのだ。外銀は貸して損をしても、交換で儲けていたというわけだ。

ここに我が国の銀行の置かれた笑い事ではない状況がある。

### §お知らせ§

今月24日迄に地元3行(千葉・千葉興業・京葉の各地銀)の中間決算が発表されました。SMCでは、地元行の力量を示す公表数値を3行比較・時系列比較をしてA4版で2枚にまとめて見ました。ご希望の方にはFAXにて送ります。

電話・FAX等でお気軽にお申し出下さい。

1998. 11. 28(第132号)

TEL. 0438-53-6092 FAX. 0438-53-6096

E-mail smc\_toyo@hi-ho.ne.jp